

令和7年度 第2回 草津市スポーツ推進審議会 会議録

■日時：

令和7年8月5日（火）18時00分～20時00分

■場所：

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、杉田委員、小傳良委員、中野委員、小川委員、稲田委員、吉野委員、板坂委員、
庄司委員

■欠席委員：

平尾委員

■事務局：

教育委員会事務局 奥谷理事、安藤副部長
岩城副部長（国スポ・障スポ推進室長）
西田副部長（学校教育課長）
学校教育課 中村主査
スポーツ推進課 遠藤課長、高倉課長補佐

■傍聴者：

0名

1 開会

【事務局】

本日はお忙しい中、第2回草津市スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

去る6月に開催させていただきました第1回審議会では、第3期草津市スポーツ推進計画の策定について諮問させていただき、第3期計画の策定に向けた考え方や関係者の方へのアンケート調査について御議論をいただいたところでございます。

本日は、そのアンケート調査の結果速報および骨子案について御審議をいただきたいと考えております。また、次回の会議では素案をお示ししてまいりたいと考えております。

本日は限られた時間の中ではございますが、様々な観点から御意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 審議案件

(1) アンケート調査結果報告（速報）について

【事務局】

資料1に基づき、アンケート調査結果報告（速報）について説明

【会長】

黒い帯から順番に質問を受けていきたいと思う。

まず、3ページ「1 運動・スポーツを嫌いとする理由について（小学生・中学生）」について質問はあるか。

【委員】

母数の見方の確認だが、3ページの（1）と4ページの（2）、5ページの（3）の違いを教えていただきたい。

【事務局】

3ページの分母であるが、この前段に、「休み時間や授業以外で運動をしているか」という設問があり、その中で「していない」と回答した方を対象とした設問となっている。

4ページと5ページについては、小学5年生・中学2年生の全数となっており、そこで差が出ている。

【委員】

前回の令和2年度調査との比較がないため、どれぐらい伸びているかが分からないが、全体的には「とても好き」あるいは「どちらかというと好き」というこどもの割合は多いと感じている。ただ、今から3、40年前の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と比較すると、身長や体重は伸びているが、昔と今とでは学校外における過ごし方が変わり、50メートル走やソフトボール投げの記録は下がっている。学校でも、特に小学校体育連盟の様々な事業を通して運動、体力づくりに取り組んでいるが、「(2) 今後どのようなことがあれば現在よりも運動やスポーツをしようと思うか」の質問で「自分が好きな種目、できそうな種目があったら」の割合が最も高いという結果を鑑みると、もっと地域のスポーツに親しむことが必要と感じた。

【委員】

3ページの「お金がかかる」というのは、どういう意味なのか。

【事務局】

運動の仕方にもいろいろあるとは思いますが、習い事や道具の購入にはお金がかかるので、そ

の点を理由に挙げている方が一定数いるということかと考える。

【会長】

中学生の部活動の地域移行時には、別途、保護者を対象とした調査が必要になってくるかと思う。

【委員】

1～2か月前にテレビで見た事例として、大学の先生が各競技について必要な能力を数値化し、反応速度や体力的な能力などのデータを取り、その人に適したスポーツを判定するという取組を紹介していた。短距離・長距離、個人競技・団体競技、身体をあまり動かさない競技や頭脳を使う競技など、さまざまな特性に応じた適性があり、それをデータで示して「あなたにはこの競技が合っている」と提案できるとのことであった。

学校等の現場では全員に対してこのような適性判定は難しいが、もし自分に合ったスポーツを早い段階で知ることができれば、取り組みやすくなると思う。特に12歳までに、遊びも含めた様々なスポーツに短期間でも挑戦できる機会をつくり、その中で興味を持つきっかけを与える仕組みがあると良い。

【会長】

今後、次の検討をしていく上で、どこまでの年齢をジュニア期と言うのが課題になってくるかと思う。例えば、日本スポーツ協会では18歳までをジュニア期としている。

また、今回のアンケート結果を見て感じたこととして、男女の違いが見られた。従来は男子・女子を区別せず一括でまとめてきたが、今後はある程度男女の線引きをしながら議論を進める必要があると考える。特に中高年層では男女で結果が異なっており、また、子どもが興味を持つ種目や実施率も性別によって異なるため、その辺りを丁寧に分析していく必要があると感じたところである。

次に、8ページの中学校部活動の地域連携に関して、前回のアンケート調査では焦点を当てていなかったが、この2～3年で注目されるようになったことから、各競技団体や関係団体が地域連携をどのように受け止めているかについて調査したものである。

全国的にも、地域連携を進める上で指導者の確保が課題となっており、特に人口の少ない地域では指導者育成や施設確保が困難である。今回の母数は38団体であったが、政令指定都市など人口の多い地域では一定の仕組みができつつある一方、小規模自治体では課題が顕著である。

9ページの「部活動の地域連携に協力できない理由」のまとめによれば、スポーツ協会加盟競技団体では、時間調整の難しさや新たな活動への対応が困難という回答が多かった。スポーツ少年団では、小学生から中学生へ移行すると運動量が増加するので、けがへの対応の難しさを課題として挙げられているという意図かと思う。また、総合型地域スポーツクラ

ブでは、指導力のあるメンバーがいないという回答であった。

【委員】

地域移行には当然お金が必要となるが、現在、くさつ健・交クラブでは到底対応できない状態であり、指導者の費用を市で対応してもらえるのかどうか大きなポイントの一つだと考える。

【委員】

「生徒指導（いじめ等）の対応が不安」とあるが、これはどういうことか。

【事務局】

中学校の部活動を実施していく上で様々な生徒間のトラブルが想定されるが、そういった問題に対して民間・地域の団体が学校の先生と同様の対応・指導ができるかどうか不安という意図だと考える。

【委員】

「指導力のあるメンバーがいない」については、どうすれば解決できると考えるか。

【事務局】

指導力のある人材がどれだけいるのかは、これからの調査になってくると考えている。

現時点では分かりかねるところもあるので、今後、様々なスポーツ関係団体の方からヒアリング等を通してヒントをいただき、指導力のある人材をいかに確保していくかを考えていきたい。

【事務局】

国は、基本的には地域展開といって、地域のクラブチームの中に生徒が入るという形式を進めており、神戸市等の大都市が先進的に実施しようとしている。

一方で草津市が考えているのは地域連携であり、現在、中学校1校あたり2クラブずつ指導者に来て頂いている。基本は平日2日と土日のどちらかであり、顧問というよりも専門の指導者としてお招きし、一定の報酬を支払って活動して頂いている状況である。

現在、市内には80弱のクラブがあるが、今後数年かけてすべてのクラブに専門指導者に来て頂ける状態にしたいと考えている。その際の課題として、現状では校長や体育教員などの個人のネットワークで人材を確保しているが、全クラブに対応するには個人のネットワークだけでは限界があるという点である。そのため、今回のアンケートではスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどに指導者がいるか否かを調査したところであり、結果として、指導力のあるメンバーがいない、余裕がないといった回答もあった。先ほど、「今後、

指導者をどのように探し確保するのか」といった意見があったが、市としてもスキームを構築し、部活動の運営体制を維持するとともに、こども達には高校での競技活動に限らず、生涯スポーツとして継続してもらうことにつなげたいと考えている。この取り組みを今後数年で拡充するにあたり、多方面からの協力が不可欠であると市として認識している。

【会長】

先ほど、神戸市の話が出たが、神戸市の中学校の学区の区分けはいびつであり、それを一つの大きい枠として捉え始めている。政令指定都市の実施方法は様々であり、小さい市町でもうまくいくのかどうか、今後皆様方にも御意見をいただくことになるかと思う。

草津市の場合、大きなプールができたので、そこで水泳を一まとめにするなど、まずは種目単位で検討するのも良いと考える。これは私の意見であるので、皆様方で今後検討いただけたらと思う。

【事務局】

スポーツ協会加盟競技団体について見てみると、全体の半数が「積極的に協力したい」「依頼があれば協力したい」と回答されており、また、できないと回答された理由として「指導能力のあるメンバーがいない」は0%であった。こういった点はとても心強く感じており、お手本として実施いただくことで参画団体の拡大につながるものと期待している。

【会長】

次に10ページから17ページの「3 運動・スポーツに対する意向や実施状況（18歳以上）」について、ここからが非常に重要な項目になってくると思う。

まず、運動不足を感じているかについてであるが、10ページにおいては、30代男性が多く感じているという結果が出ている。また、女性では20～40代で顕著な数値となっている。年代によってデータの傾向が異なることが明らかである。

今後は、この年齢区分の設定方法を検討する必要があると考える。例えば、60代を70代や80代と一括りにするのか、または50代と60代をまとめるのか等、分類の仕方について議論が必要である。

また、13ページにおいては、若年層や子育て・働き盛り世代が、時間不足や仕事・家事の多忙さを運動不足の要因として挙げている。これを踏まえ、計画策定においては、家庭や帰宅後の短時間（10分～15分程度）で取り組める運動の仕組みやメッセージを発信していくことが課題であると考ええる。

これまでも「運動しよう」と呼びかけは行ってきたが、実際にはなかなか実行につながっていない現状がある。

【委員】

子育て期である20代、30代の母親、女性が運動できていないという点については、自分自身も同様の経験がある。現在では時間が取れるようになったことから健康のために運動をしているが、若い頃はそこまで考えが及ばなかった。健康のために運動が必要だと意識するのは、40代を超えてからなのではないかと思う。若い世代は家事などで多忙であるため、運動ができないという数値が出ているのだと思う。

【会長】

やはり女性の場合、30代頃から運動への意識づくりを市としても強化し、メッセージを発信していく必要があるのではないかと。前回の計画では、その部分が十分にできていなかった。

【委員】

現役で仕事をしている方は、運動のための時間を確保することは難しいと思う。私自身は30代以降、会社で軟式野球、草野球を行っており、職場や周囲の環境にそうした機会があれば比較的取り組みやすい。しかし、そうした環境がない場合は、自分一人で運動しようという気持ちになかなかつながらない。

昨今は買物でポイントが付与されるなどの制度があるが、同様に運動やイベント参加で特典を得られる仕組みを作り、その特典を電子マネーなどに変換できれば、若い人の参加意欲を高められる可能性があるのではないかと思う。

【会長】

男性は競技、女性はおそらくといえば教室や講座に興味関心を持っているという調査結果が報告されたが、新しく計画を立てるにあたっては、男女間の傾向の違いを踏まえた上で、メッセージを発信することも有効かと思った。

【委員】

スポーツクラブでアルバイトをしているが、20代・30代の女性の方は出産を機に運動から離れる方が多いと感じる。一方で、水泳は0歳児から母親と一緒に取り組める運動であり、こどもが成長した後にも同じ種目を続けるきっかけになるのではないかと考えた。

【会長】

次に18～21ページの「4 スポーツボランティアについて」である。

「過去1年間のスポーツボランティアの活動状況」では、参加していないと回答した方が多い結果となっているが、草津市における国スポのボランティア登録者数は非常に多いということであり、この点をレガシーとして継続していただくことが重要だと考える。

事務局に質問だが、ボランティアの登録者は、何歳ぐらいの方が多いのか。

【事務局】

現在、登録者は1,000人を超えており、50代～70代の方が特に多い。今回従事いただく業務には、例えばこども向け体験ブースの広報活動などもあり、スポーツ分野におけるボランティア活動の場はたくさんあると思っている。

【会長】

国スポ終了後、ボランティアの様子や、参加された方々の感想などをアナウンスしていくようなことは考えているのか。

【事務局】

そこまでは考えていないが、実際、ボランティアをやりたいと言われる意欲のある方はものすごく多く、航空会社の客室乗務員を講師として招きボランティアの研修会を実施した際には、参加者の熱心さに講師の方々は驚いておられた。そのような場をどのように作っていくかが今後の課題だと思っている。

また、例えば、軽食が提供されるようなマラソン大会ではボランティアの参加者が多いなど、工夫次第で参加者はもっと増加するのではないかと思う。

【会長】

非常に大事なことを言っていたいた。

ボランティアが参加しやすい仕組みづくりが重要だと考える。

【委員】

ただ、ボランティアを募集するのは非常に難しく、なかなか参加してもらえない。

年配の方が多く、若い方は自分の仕事があるので参加してもらえない。

【会長】

50代、60代の方の参加が多いということなので、常に50代、60代の方が入ってくるといいう仕組みづくりが、レガシーになるのかもしれない。

それでは、続いて22ページから32ページの「5 地域でのスポーツイベント等に対する認知度について」に関して質問はあるか。

驚いたのが、30ページの「スポーツに関する情報を入手しやすい方法」において、約50%の方が「県市町の広報紙」と回答されていることである。例えば、紙面にはキーワードだけを掲載して、あとはQRコードで詳細を確認できるようにしておくなど、広報紙を活用した効率的・効果的な情報発信方法を考えても良いと思う。

【事務局】

24・25ページで各イベントの認知度を掲載しているが、その中で11番の「歩こう会」については定期的に広報紙に掲載しており、その効果もあって他のイベントより高い認知度になっているものとする。

【会長】

年齢別でデータを見ても良いかもしれない。例えば20代、30代が歩こう会に興味を持つかどうかではなく、40代、50代、60代の方々がどう見ているのかというのを年代別で、あるいは男女の違いも見ながら分析するのも大事なのかと思った。

【委員】

現状、「歩こう会」に参加される方は、50代、60代、70代が多く、若い方に参加いただくと非常にありがたい。

現在、草津市の広報紙に毎月掲載しているが、参加したことがある人の割合が低いことを受け、先日の草津市スポーツ推進委員協議会の会議で「どのようにすればもっと広められるか」について議論を行ったところであり、今後も継続して議論を続けていくことになっている。

【会長】

それでは、続いて33ページから44ページの「6 スポーツ関係団体の運営・活動の状況について」では、特に35ページにおいて、各団体が現在抱える課題が整理されている。

特に、地域の団体を運営されている委員において、何か意見はあるか。

【委員】

特に屋外の競技に関して施設が不足している。屋外競技で実際使用しているのは野村運動公園だけであり、ふれあいグラウンドはグラウンドではなく、広場である。新しい志津運動公園の早期の整備を希望する。事務局は十分に足りていると思っているのか。

【事務局】

志津運動公園については以前使用可能であったものがなくなってしまい、ご迷惑をおかけしていることを大変申し訳なく思っている。新しい志津運動公園の整備基本計画については、昨年度、審議会にて答申をいただき政策決定されたところである。その進捗状況が1年延びたことについても、申し訳なく思っているところである。整備については一度に全て行うことは困難であるが、スポーツ環境の充実につなげることを目的として各種方策を検討し、次期スポーツ推進計画策定においても充実した内容となるよう、皆様の御理解をいた

だきたい。

【会長】

特に競技団体の施設の環境整備というのは大事ということで、その辺りは次回の基本計画に出していくべきと思う。

最後に42ページから44ページの「7 スポーツによるまちの活性化」について、先ほど事務局からも話があったが、この国スポによって、草津市の色が全国に発信されていけば良いし、特に水泳ではいかにプールを発信していくかが大事なところかと思う。

(2) 第3期草津市スポーツ推進計画（骨子案）について

【事務局】

資料2・3に基づき、(2) 第3期草津市スポーツ推進計画（骨子案）について説明

【会長】

特に「健康」というキーワードは、市町の推進計画において非常に重要になってきている。競技力向上について、高校生以上・社会人は県が主導していくところかと思うが、それ以外のところは、この推進計画が担うところかと思う。

資料3の2ページ目、「4 運動・スポーツ環境の充実」の「(6) 学校体育施設開放の充実」について、「スポーツ」ではなく「体育」という言葉を今後も使用していくのか。

【事務局】

こちらに関しては、「学校体育施設開放事業」というものの自体が、もともと昭和50年代頃の文部科学省の当時の通知に基づいて始まっている事業で、これは草津市のみならず、全国各地で実施されている事業である。それが社会体育施設も含めて、過去の経過も踏まえた表現として残っているものである。「体育」を例えば「スポーツ」に変えた方が意義があるのであれば、見直しも考えていけば良いかと思うが、一方で、かなり長くこの名称で事業として使用されている部分もあるので、急に名称が変わることで利用される方が違うものだと認識されるのも逆に困り、変更するにしてもその必要性についてきちっと考えていきたいと思う。

【会長】

変更してほしいという話ではなく、現状として「スポーツ」という表現にシフトしてきている中で、行政としてこの点をどのように捉えているのかが気になった。授業では、従来通り「体育」という表現が存在するが、施設運営の面においても、草津市としては「体育」という表現で今後も進めるのか、それとも「スポーツ」という概念に沿って進めるのか、その

点について質問したものである。無理に変更してほしいという趣旨ではない。

【委員】

基本方針1「こどもの体力向上と運動・スポーツ活動の推進」では、「運動」という言葉が入っていることから、その下の施策(2)「多様なスポーツに触れる機会の創出」にも「運動」を入れたほうが良いのではないか。

【事務局】

最終的に整合を取る。

【会長】

計画期間中使い続ける言葉になるため、重要なことである。
その他、何か気づいたことはあるか。

【委員】

本日の午前中に大学において体育会の集まりがあり、その中で、茨木市のキャンパスにあるバドミントン部が、茨木市と他のスポンサーと連携して、バドミントン教室を新たに開始する予定という話があった。実施方法は部員が教えに行く形で、対象は小学校・中学校の児童・生徒でバドミントン経験がない人でも参加可能、費用面はスポンサーが対応するとのことで、特に、茨木市とバドミントン部がスポンサーのPRをしっかり行っていた点が良いと感じた。

【会長】

海外では、企業スポンサーがつくスポーツ教室やイベントでは、必ず教室の冒頭や終了時にスポンサーへの感謝を伝える習慣がある。例えば「今日の教室はK電機さんのスポンサーシップにより開催されます」、「終了後にはK電機さんに感謝しましょう」といった形で、これにより、スポンサーが支援する仕組みが持続可能となる。一方で日本では、まだその部分が十分に定着しておらず、支援を受ける際の感謝の表現が弱い現状があり、新しい仕組みや考え方を学び、今後の計画に活かしていく必要がある。

それでは、次回の審議会では、計画の素案を報告していただくが、たたき台については、私も関わらせていただき、つくっていきたいと思う。また、皆様方には、国スポをいろいろな形で見ていただき、それを5年、10年、草津市にどう残していくのか、その辺りのアドバイスもいただけたらと思う。

方針の一つに「こどもの体力向上」とあるが、草津市が全国トップである必要はなく、誰もがスポーツできる機会・環境をいかに整えていくのかが非常に大事なところかと思う。子どもたちが国スポを見て、感動し、スポーツをやってみよう意識を変えていくことが大事

だと思ふ。是非、皆様方もそういう目で見ていただけたらと思ふ。

本日、各委員から意見のあつた箇所をできるだけ組み込む形で進めたいと思ふので、よろしく願ひする。

3 閉会

【事務局】

委員各位におかれましては、慎重なる御審議をいただき誠にありがとうございました。

本日いただきました皆様の貴重な御意見につきましては、先ほどの話もありましたとおり、きちっと踏まえながら、第3期草津市スポーツ推進計画の策定を進めてまいりたいと考えております。また、次回の審議会でお示しする計画の素案に対しましても、引き続き御意見をいただきながら計画を作り上げていきたいと考えておりますので宜しくお願いします。

それでは、これにて閉会といたします。皆様、どうもありがとうございました。

以上。